

平成30年北海道胆振東部地震から1年を迎えて

厚真町に甚大な被害をもたらした北海道胆振東部地震から1年を迎えました。

昨年の9月6日午前3時7分、本町を中心にマグニチュード6.7、震度7を記録した大地震は、農村の見慣れた美しい風景を一変させた突然の出来事でありましたが、特に、自らの人生を振り返る暇もなく犠牲となられた方々にとっては、不条理な痛恨事にさぞかし無念であったろうと思うと、尽きることない悲しみが胸にこみあげてまいります。ましてや最愛のご家族やご親戚、ご友人を失われた皆様の決して癒えることのない悲しみの深さは、察するに余りあり、改めて災害関連死認定された1名を加えて犠牲になられた37名の御霊とご遺族の皆様衷心より哀悼の誠を捧げます。

また、今日まで不安な毎日を過ごされ、ご不自由な生活を余儀なくされている被災者の皆様にも、改めて心からのお見舞いを申し上げますとともに、日々の懸命なご努力に深甚なる敬意と謝意を表します。

胆振東部3町以外でも札幌市など多くの地域で甚大な被害が発生し、社会資本や個人資産への被害が広範囲に広がりましたが、震源地である胆振東部3町においては4,300haにも及ぶ山腹崩壊が伴いました。特に本町では北部山間地を中心に3,200haにも達する地滑りが発生しましたが、そこには自然と共存してきた人々の暮らしがありました。37名の犠牲者が暮らした幌内、富里、高丘、吉野、桜丘、朝日、幌里地区は、一様に開拓以来、鬱蒼とした原始の森を切り開きながら、幾多の困難を協働の力で乗り越えてきた地域であります。清流と豊かな森、穏やかな時間の中に抱かれて人々の暮らしと命のリレーがありました。

本町は、近年において人口の社会増が続き、震災直前には自然減を上回り人口増を記録するなど、地方創生の面から高く評価されていましたが、私たちの想像を超えた大規模な地震により、多数の犠牲者を出し、住宅被害は全壊、大規模半壊、半壊合わせて560棟を数え、インフラ、生産基盤、山林の被害が全町に広がるなど、悲しい出来事があった町として全国から注目されることになりました。

私たちに多くの恵みをもたらす豊かな自然は、時として無慈悲なまでに猛威を振ります。私たちは、そんな大自然の脅威にあらがう術を持ちませんが、それでも助け合い、地道な努力を繰り返し積み重ねることで、今日の繁栄を成し遂げてきました。一人ひとりの力は小さくとも、皆の知恵と力を合わせて、さまざまな困難を乗り越えてきたのです。終わりからまた始める、つまりいては立ち上がる、失っては作り始める、幸せも悲しみも分かちあってきた人々の歴史がそこにあります。

昨年の慰霊式の際に、遺族代表から「犠牲の大きさや悲しみにとらわれて、私たちが立ち止まることを望まない」とあいさつがあり、参列者の心を揺さぶ

りました。先人の足跡に思いをはせ、今こそ私たちは先人の努力を受け継いで、その道へ進む決意を新たにしなければなりません。悲しい町では終わらせない私たちの決意、私たちが再び立ち上がり、犠牲になられた方々が愛したこの町を再び輝かせるために、私たちが力を合わせるからこそ、悲しみの淵に立つ私たち自身が求めている答えだと考えています。

発災から時が経過する中で、国の直轄砂防応急工事はほぼ完了し、北海道の治山・砂防工事、農地や宅地堆積土砂の除去、災害廃棄物の処理、統合浄水場その他公共土木施設等の災害復旧工事も関係者のご理解とご協力、そして関係機関のご尽力により順調に進捗しています。一方で、まだ多くの方が仮設住宅や被災住宅等でご不便な生活を余儀なくされており、恒久的住宅対策として住宅再建支援策など関係者との意見交換を丁寧に進めながらも、住宅地の確保や災害公営住宅、高齢者福祉施設等の建設計画など災害救助法の適用期限を見据えた取組を加速していかなければなりません。また、北部地域の再生や地滑りがあった宅地の耐震化、防災拠点施設整備、森林再生・山地復旧と生業や生活空間の復興など技術的課題や財源確保などまだまだ多くの困難が予想されますが、町民の皆様と目標を共有する厚真町復旧・復興計画を策定し、実行に移しながら、令和の時代とともに着実に復旧・復興の歴史を重ねていかなければなりません。

昨年の11月15日には、当時の天皇（現上皇さま）、皇后両陛下（現上皇后さま）が本町に行幸啓され、私たちに勇気を与えてくださいました。全道全国各地から駆けつけていただいたエキスパートやボランティアの皆様を支えられ、さらには、多くの国民の皆様から物心両面でご支援をいただきました。私たちはかけがえのないものをたくさん失いましたが、厚真町を応援してくれている多くの方との出会いがあり、新たな“絆”が生まれています。全国から寄せられた温かい真心に応え、遠く険しい道のりではありますが先人や震災で犠牲となられた方々から託された郷土あつまの輝きを取り戻すため、町民の皆様と一丸となって、より一層の努力を重ねてまいりたいと願っています。

町民ならびに関係者の皆様には、引き続きのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年9月6日

厚真町長 宮坂 尚市朗